

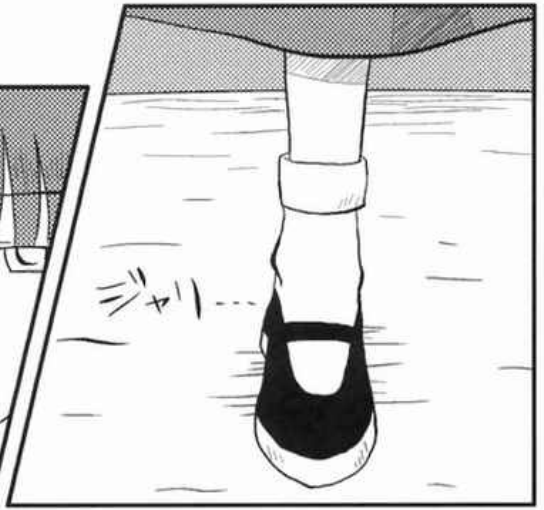
# バトル ロワイヤル 東方BR③












待ちなさい  
博麗霊夢!



あなたは一体  
何を考えているのですか

幻想郷の規律を司る  
博麗ともあろう者が  
あのような事を



なっ…

何の事かしら



あのような事？



自分が霧雨魔理沙を  
葬った事を忘れたのですか!?

ふざけるなツ!



魔理沙？



そんな事か

何だ



だってしょうがないじゃない

現実にこの生き残りゲームは  
始まってしまったのよ

私は私の最善を尽くしただけ  
それに対して文句を言われる  
筋合いなんて無いでしょう？







もしこれ以上  
ゴチャゴチャ言うのなら…

ス



邪魔しないで



はい  
そこまで！



小町…



あんまり  
苛めないでくれよ

あたい達は何も  
アンタとやりあおうって  
気はないんだからさ





なーんか温いんだよねえ  
この人



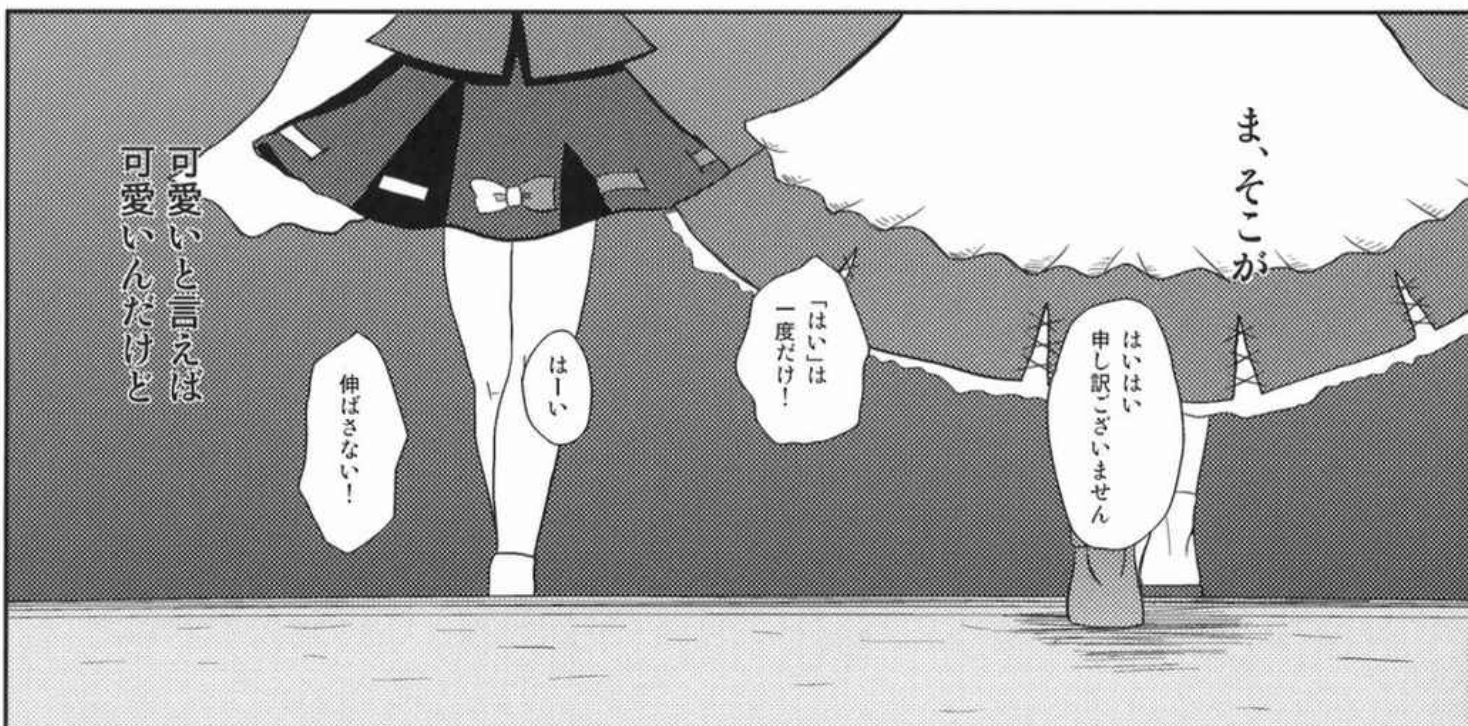
余計な口を挟むんじや  
ありません

意地っ張り



そのくせ

小町



ま、そこが

はいはい  
申し訳ございません

「はい」は  
一度だけ!

はい

伸ばさない!

可愛いと言えは  
可愛いんだけど







別に私はこの戦いで  
生き残ろうとか思っちゃいない

どうせ霊夢か紫あたりが  
何とかしてくれるだろうしな

しかし

こんな祭りを逃す手は無い！  
出来るだけ強い奴と思いつり  
暴れてやりたいと思ってる

あぁ…

あ



ま

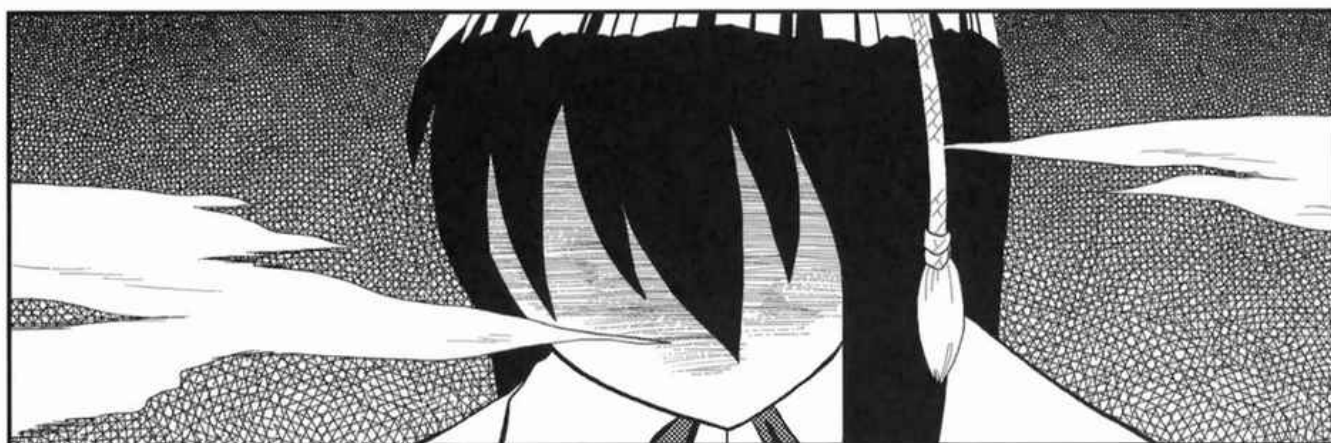


新聞新聞のネタネタくらいは  
漁漁らせてやるから

くれぐれも戦いの邪魔は  
するんじゃないぞ

カラス





ガリ





**東方BR**

どうして私なのだろう





ああ

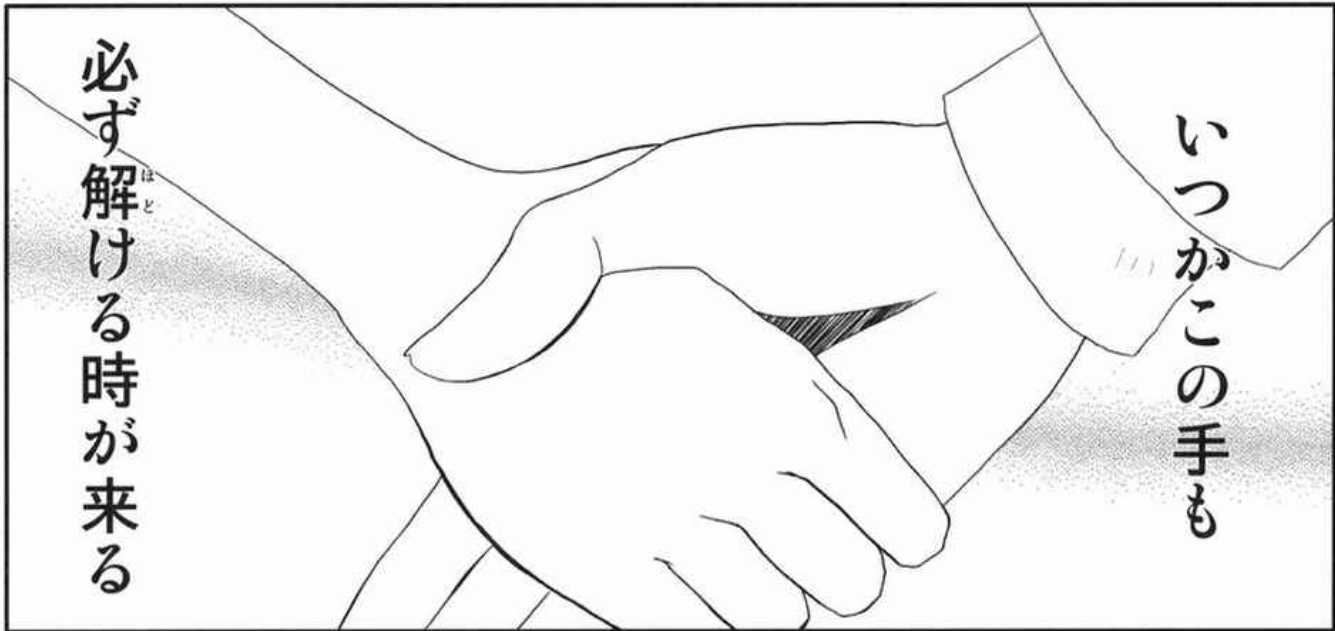


本当に残酷ね



このルールは





必ず解ける時が来る

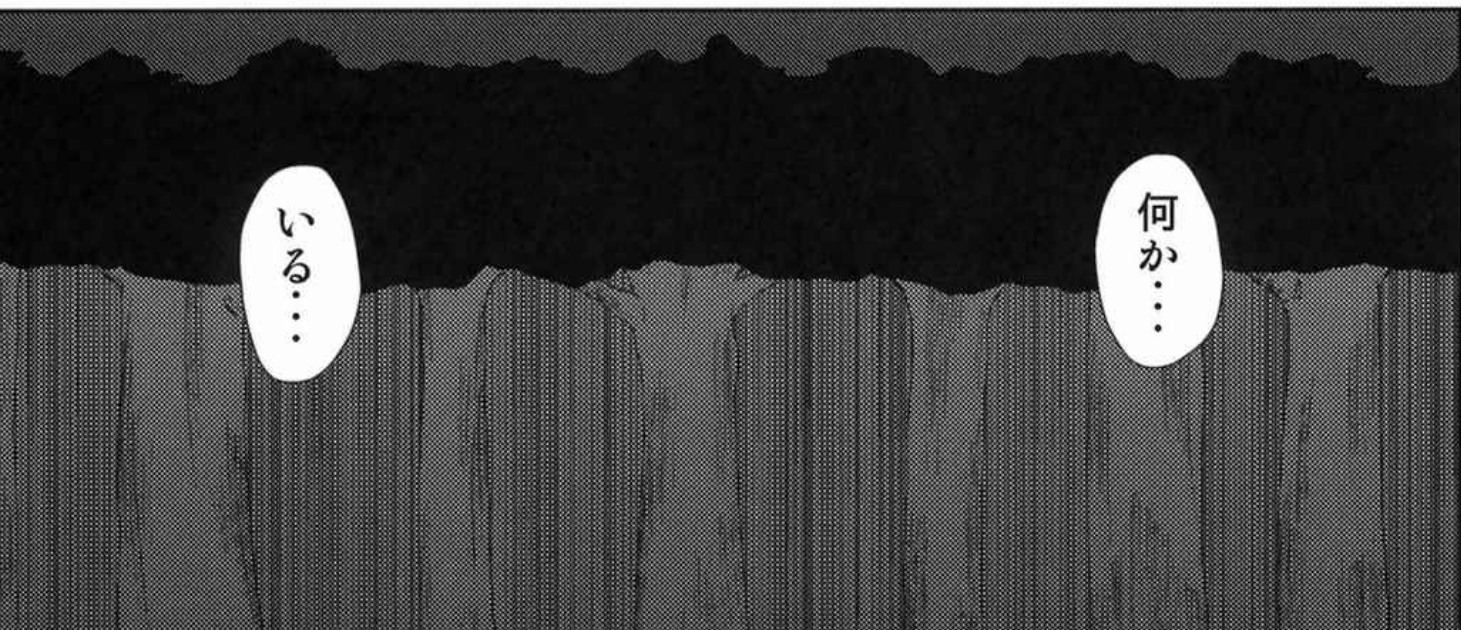
いつかこの手も



どうしたの  
チルノ？



！



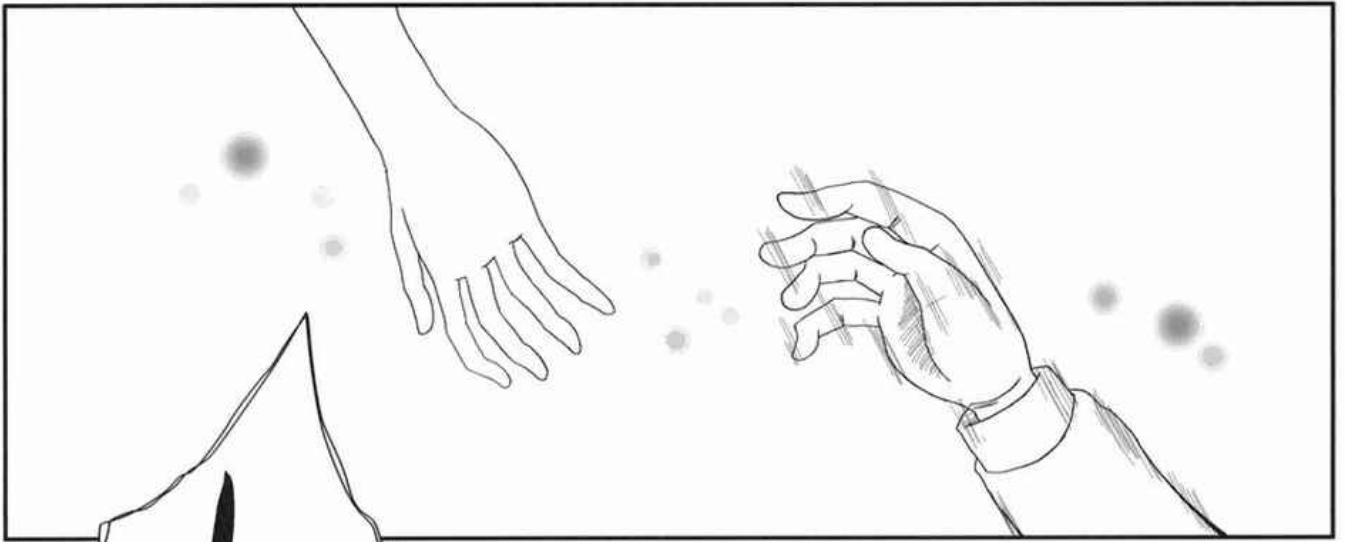
いる...

何か...





ああ



どうして



私なのだろう





所詮は



三流か

**東方BR**



プニ、



それじゃあ、ね



決まって  
雪が降った

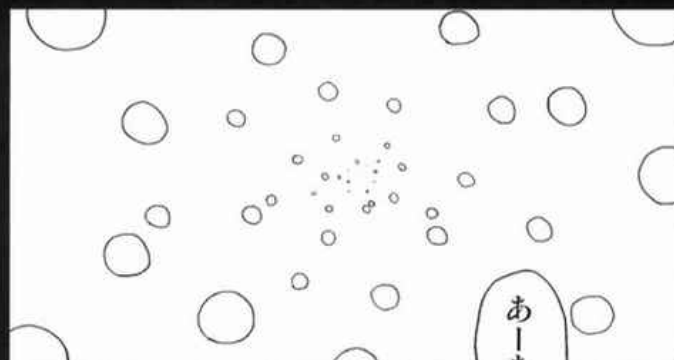
レティが冬から  
消える時には



さして

何して

遊ぼう



あーあ



行っちゃった

# 東方BR

その暖かい雪が  
あたいは大嫌い





雪が降るの

どうして

やだ

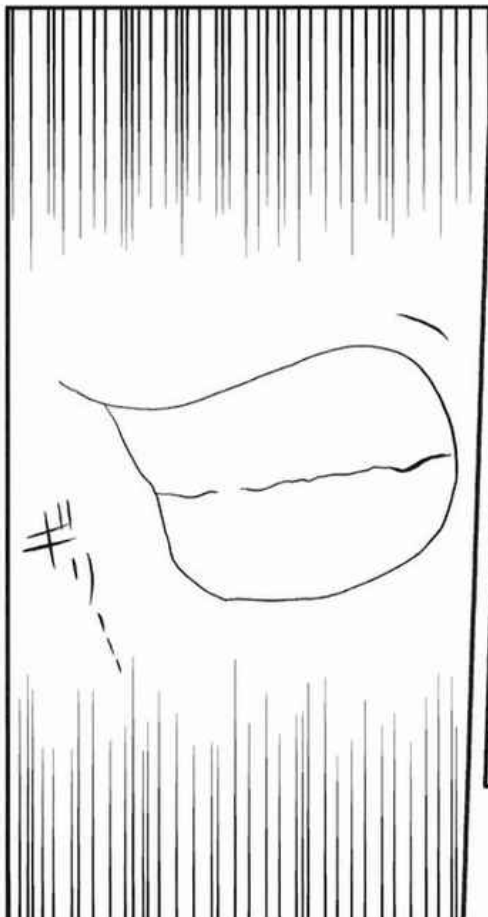
やだ

レティイ!  
レティイ!



これじゃ  
まるでー

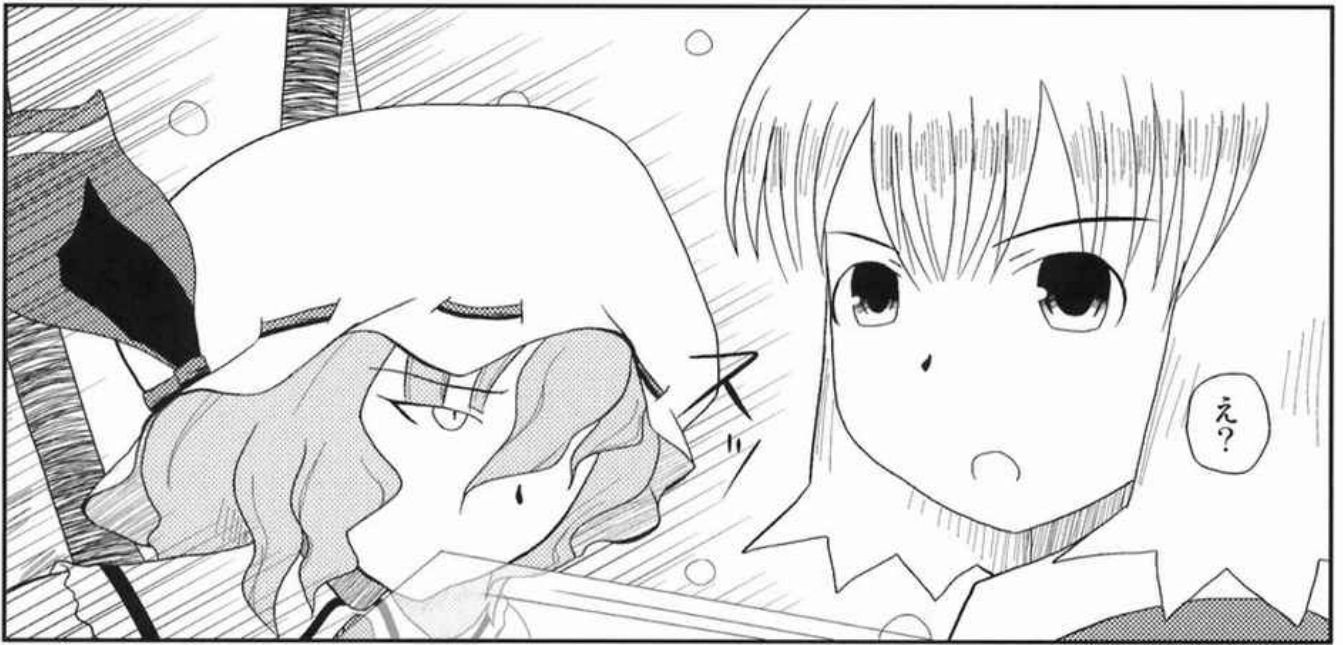
フン













このおおお!



いいだろう



遊んでやるよ  
ドングリ

死なない程度にズタズタにして  
この私に楯突いた事を後悔させてやるッ!





この位は

見せてみるッ!



なっ…





うおおおりやあああ!



無<sup>バ</sup>知<sup>カ</sup>だけに  
恐れ「知らず」というわけか



特攻だと!?



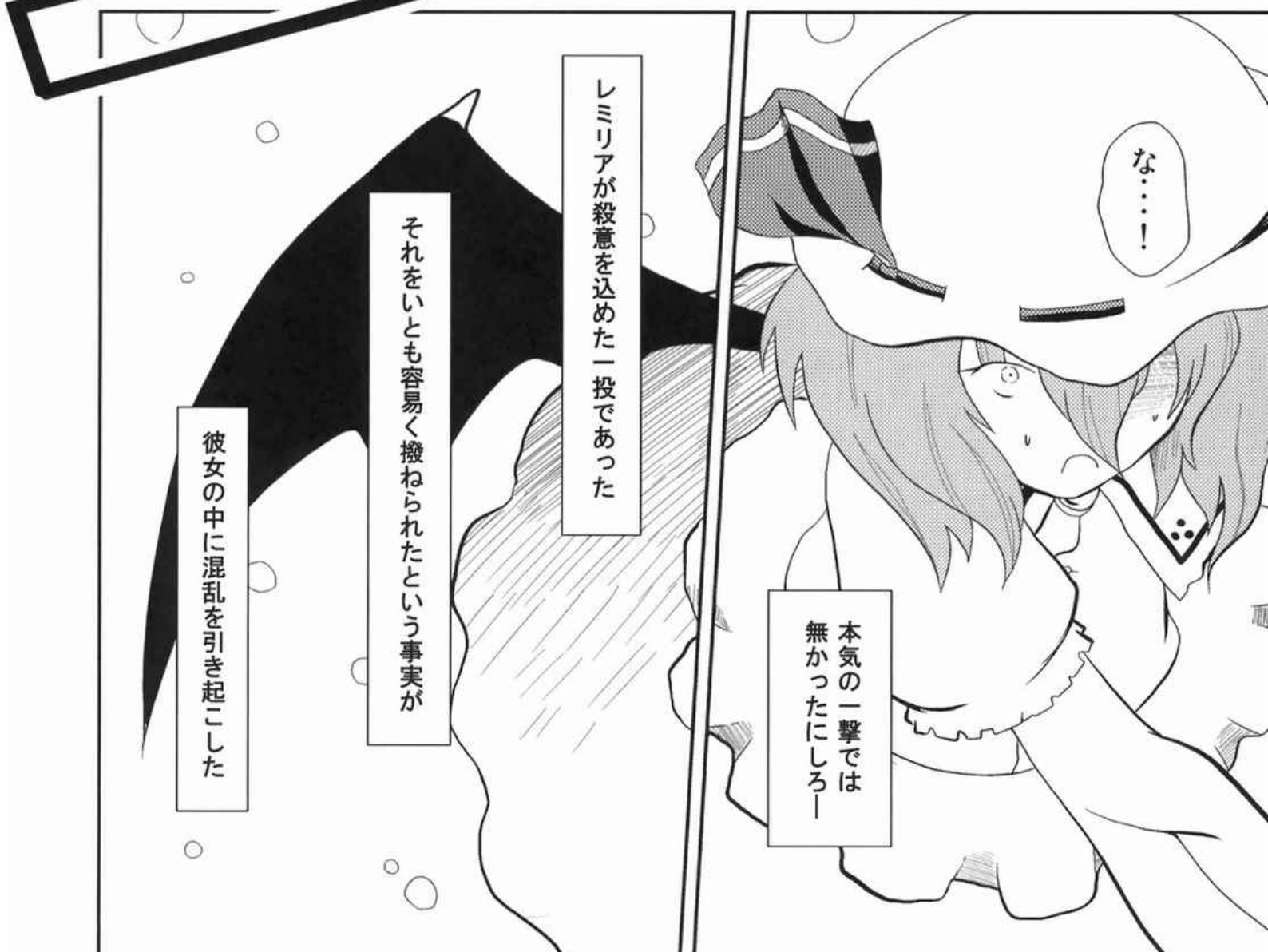
いい加減...

目障りなんだよ！





つりやあ！



な...!

レミアが殺意を込めた一投であった

それをいとも容易く撥ねられたという事実が

彼女の中に混乱を引き起こした

本気の一撃では  
無かったにしろー





「こんなはずは無い」  
「こんなバカ如きに」  
「どこにそんな力が」



レミリアはもっと早くに  
認めておかなければならなかったのだ

この無謀なる挑戦者の強さ

そして  
己の「弱点」を





**東方BR**





ドン...グリ...

ぐ...



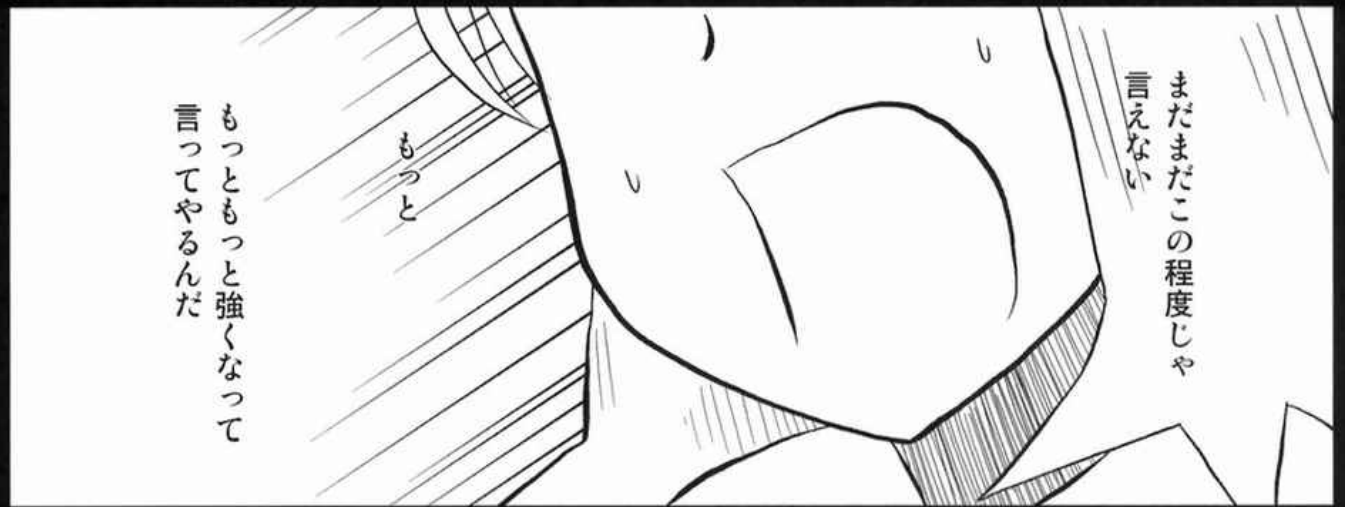
どうだっ!

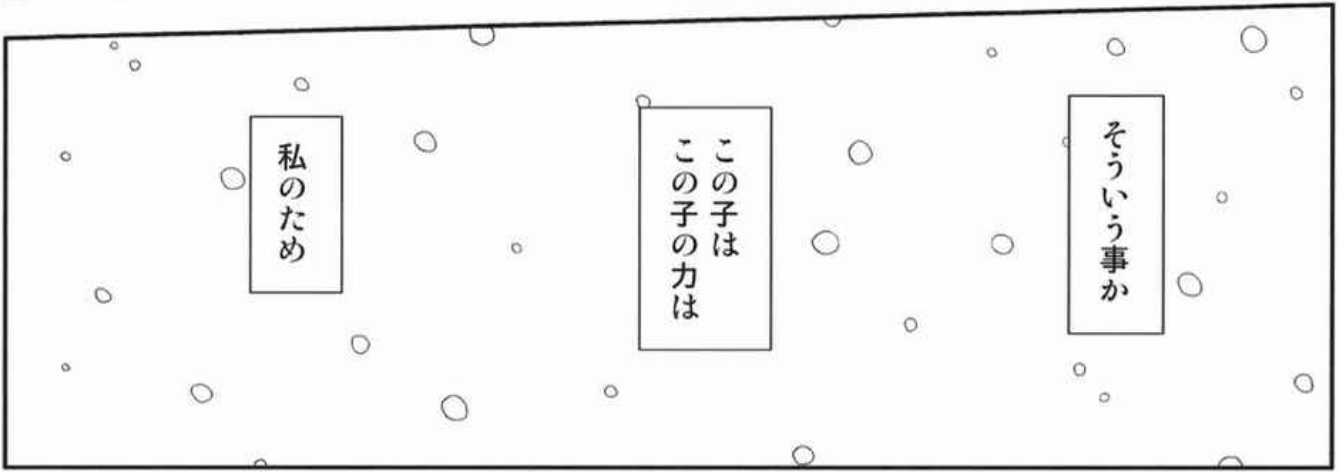
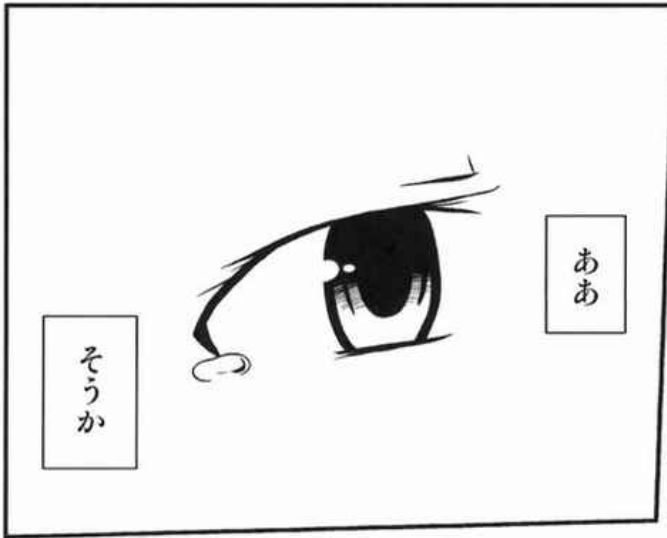
あなたは何故



強くなったの?

そんなに







# どうして私なのだろう

ずっと分からなかった



けど





やっと分かった

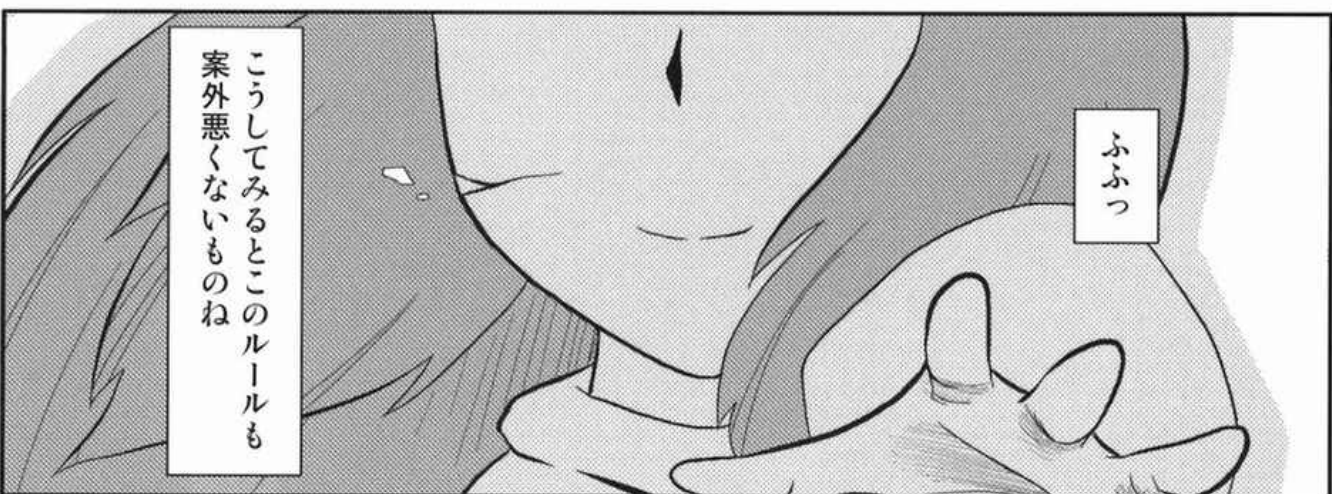
ああ



この子の為に

私は

ゴオオオオ



ふふっ

こうしてみるとこのルールも  
案外悪くないものね

吸血鬼の本当の  
弱点とは何か？

ビキ

動けん……！

それは

闇だと？

流れる水でも大蒜でも十字架でも  
日の光でさえも無く

いっけー！

生まれ持った強大な力スベックから生じる  
高慢という名の

「油断」

また  
吸血鬼は死につながる  
心臓の破壊と成り易い  
「凍結」を潜在的に恐れた

そう

馬鹿なっ

ここの私が

あっ

あっ

あああああ

レミアは「相性」という点からも  
この挑戦者をなめるべきでは  
なかったのだ



とせません

チヤッ



そして時は

動き出す



もうちよつとだったのにな



くそろう

く



遅くなって  
申し訳ありませんお嬢様



チ…



チル…ノ…



ええ、勿論同行を  
お願いしたのですが

レミイに殺されるのも  
殺すのも御免だわ

—と

そう。

うう…

咲夜ア！

レテイ…

まだ息が

ツ—





知ってるよ…

これは

ギョッ



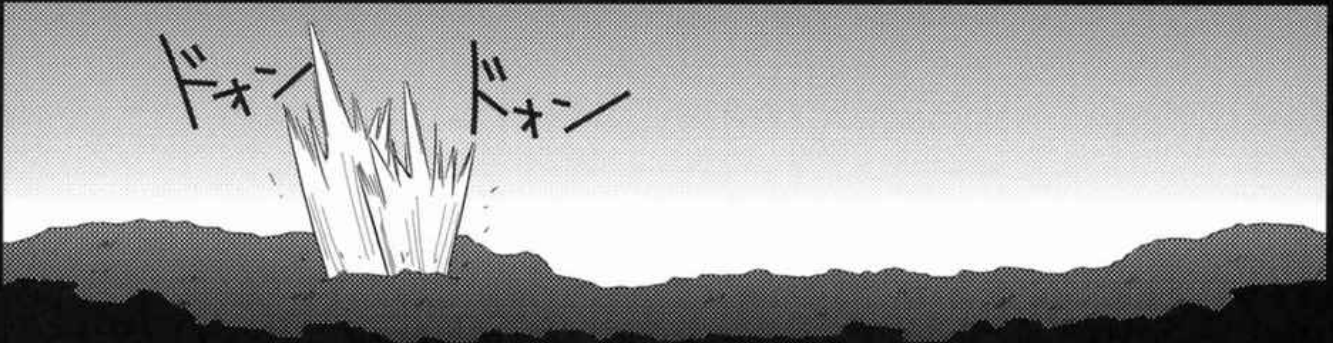
# 次回予告



桜は咲いたら



美しくも儂げに



# 東方BR④「桜」

奥付

発行者: nagare(ACID CLUB EAST)

印刷: アクシス出版

HP: <http://acidclub.sakura.ne.jp/>

連絡先: [nagarekei@y5.dion.ne.jp](mailto:nagarekei@y5.dion.ne.jp)



**ACID CLUB EAST**